



多気町立図書館だより

TEL:0598-38-1133 (多気図書館)

TEL:0598-49-4500 (勢和図書館)

<https://www.town.taki.mie.jp/library/index.html>



『だって春だもん』
小寺卓矢/写真・文
白泉社 Eガ



図書館ってどんなところ？

- 本との出会い(新しいものから古いものまで、ジャンルいろいろ)
- 無料で
- どなたでも
- 調べもののお手伝い。何か面白い本はない？などのお手伝い。
- あかちゃんからお年寄りまで
- 私たち司書にお声がけください。
- どなたでもご利用いただけます

春ですね ぽかぽか陽気。
ふらりと図書館へ来ませんか？

多気図書館

4月のカレンダー

: 休館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6 おはなし会
7	8	9	10	11	12 おはなし おもちや	13 おはなし ほけっと
14	15	16	17	18	19 赤ちゃん おはなし 会	20
21	22	23	24	25	26 整理日	27 おはなし ほけっと
28	29	30	おはなし会		10:30~	

おはなし会のご案内

●図書館司書によるおはなし会

・毎月第1土曜日…

絵本を読んだり、手遊びをしたり、子どもも大人も、みんな一緒に楽しんでいただける時間です。

・毎月第3金曜日…0歳~2歳児の親子さん。

絵本を読んだり、わらべうたをうたったり、手遊びで遊んだりします。もうすぐママになるあなたも！

●ボランティアさんによるおはなし会

・毎月第2金曜日は おはなしおもちや…

0~2歳対象のおはなし会です。

・毎月第2と第4土曜日は おはなしほけっと…

3歳~から小学校低学年対象のおはなし会です。

勢和図書館

4月のカレンダー

: 休館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 おはなし会 (0歳)	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13 おはなし会
14 ほんと カフェ	15	16	17 おはなし会 (1~3歳)	18	19	20
21	22	23	24	25	26 整理日	27 おはなし会
28	29	30	おはなし会		10:30~	

ブックスタート(おひさま) 4/26(金) 10:00~

~ イベント 紹介 ~

・ほんととカフェ

日 時: 4月14日(日) 13:00~16:00

場 所: 勢和図書館

コラボ: ホタルカゴさん

FB・Insta→「多気町立勢和図書館」

か「seiwalib」で検索

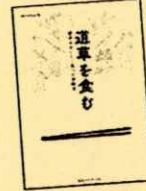


勢和:FB



勢和:IG

4月のおすすめ本



『道草を食む』 Michikusa: 著 CCCメディアハウス (470円)

道端に生える可愛い植物たち。え!?これも食べることができるの? 代表的なのはノビルやつくしはご存じですよね。では、セイタカアワダチソウはいかがでしょう?植物の特徴などと一緒においしい料理の仕方も紹介!

『家を出る日のために』 辰巳渚: 著 理論社 (590円)

春は新生活の始まりです!初めての一人暮らしという方も多いのでは? 日々の暮らしに役立つ生きた知恵や、心も身体も充実感を得るためのヒントが紹介されています。自分自身だけではなく、送り出してくれた家族、新たな環境での暮らしをいとおしみ大切にしていきたい...と思わせてくれる一冊です。



『学芸員が知らない美術館が楽しくなる話』

ちいさな美術館の学芸員: 著 産業編集センター (706.9円)



時間と日常を忘れ作品鑑賞を楽しめる場所…美術館!そんな美術館で働く、学芸員が10倍楽しむためのポイントや知られざる舞台裏を教えてください!!

『空想の海』 深緑野分: 著 角川書店 (F913.67)

色とりどりの“読む楽しさ”を味わえる短編作品集です。一話目の「海」では本を探し求める、本を読む描写がとても印象的で、胸をつかれます。

著者デビュー10周年の記念作品集。著者の代表作『この本を盗むものは』の前日譚も収録されています。あなたもぜひ、空想の海にどっぷり浸かってみてください!



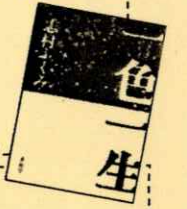
『まぼろしを織る』 ほしおさなえ: 著 ポプラ社 (F913.6*)

真っ白な糸に色を染める。特に藍に触れるとその人の奥にあるものが引っ張り出される。

叔母の染織り工房を手伝う槐。ある日そこにやって来たのは従兄の繪。槐も繪も心に大きな闇を抱えていた。糸を紡ぎ、染めることに触れながら二人はそれぞれの心と向き合っていく。

『一色一生』 志村ふくみ: 著 求龍堂 (753円)

一色に十年。いや一色一生!奥が深い染物、織物の世界。



『聴こえない母に訊きにくい』 五十嵐大: 著 柏書房 (916円)

コーダである五十嵐さん。お母さんにずっと訊きたかったことがあったそうです。“優生保護法”があった時代に生きた母たち。もしかしたら自分は生まれてこなかった存在だったかもしれない。

ほくの耳は聴こえるけれど、本当はどちらがよかった?

